

平成27年3月27日（金）
財政局会議室（第3庁舎12階）

<開会>

15:00

<行政側出席者より資料の説明>

<委員長>

どうもありがとうございました。それでは只今の説明に関しまして、御意見、御質問などごさいませうでしょうか。

<有識者委員>

38ページの長寿命化の点検結果の評価、分析として、中央グラフに、対象施設別かつ部位別の劣化状況が出てきています。これはどのような評価で出てくるものなののでしょうか。

<行政側出席者>

1というフラグが立っている施設の延床面積で表しています。

<有識者委員>

建築だと建築部位でフラグが立っている施設の面積ですか。

<行政側出席者>

はい。一番左の表が延床の比率になりまして、ここと比べて比率がどうなっているかというのを見えています。全て同じ状況であればこの比率になります。この比率と同じではない、例えば真ん中の表の建築では市民館というところが一番に来ており、そうすると全体のバランスとしては市民館の建築系が対応を要する部分であるということがわかります。そうすると管理や現場に実務的な指導をしていく等の必要がある場合も考えられます。こういった分析をしながらどういった対応を各部門にしていけばいいのか、どういうアクションをしていくことが効果的なのかということを検討しているといった意味になります。

<有識者委員>

また詳しく教えていただきたいのですが、建築の部位を取り出すのはどのようにされていますか。建築部門と空調機部門と電気部門と事業系部門の4つのグラフがあってそれを複合するとこうなるというイメージですか。

<行政側出席者>

はい、そのイメージです。

<有識者委員>

わかりました。

<行政側出席者>

利用される市民の方の快適性ですとか、そこで生活するために温度を保たなければならないということの方が、施設を運営されている方にとってはプライオリティーが高くなっています。

<有識者委員>

そういったところ以外にも意識を向けるためのものですか。

<行政側出席者>

はい、そのバランスが難しいのかなと思っています。

<有識者委員>

わかりました。

<有識者委員>

39ページで施設群別劣化状況の評価、分析のところで、空調、冷温水発生機、屋上防水に分かれておりまして、これを見ると、市役所については屋上防水については指摘されている面積割合からすれば小さいけれども、空調については半分以上の指摘があるというのは、躯体の防水など基本的な部分で区役所は進んでいるが、空調関係についてはむしろ遅れているので、予算的な手当をしなければならないといったような見方をすればよろしいでしょうか。

<行政側出席者>

そろそろ30年程度を迎える施設がございまして、使い勝手もそれぞれ違いますが、規模の大きい区役所が更新の時期を迎えているということが課題であると思っています。

<有識者委員>

裏を返すと市民館はバランスが良い感じがします。

<行政側出席者>

そうですね。2施設に関して ESCO 事業を実施しておりまして、先行的に更新をしております。ESCO 事業については環境部門が主導して、実施をいたしました。

<有識者委員>

それから前回、長寿命化が先に来ているということに、多少違和感があるという話をしましたが、

今回の御説明でも明らかになったように、最適化、あるいは有効活用については以前からやっておられて、どちらかといえば改築等に対応してきた部分があって、長寿命化ということに力を入れていくという意味で、施設の長寿命化が先に来ているという説明があって、その部分は大変腑に落ちたところでございます。御説明いただき、大変よくわかりました。ありがとうございます。

それから、今回、一般会計中心の御説明ということで、企業会計分も同じようなやり方で長寿命化等の取組をされていると思いますが、進捗はざっくりで構いませんがどのような状況でしょうか。

<行政側出席者>

資産マネジメントカルテは総合管理計画としての位置付けがあり、対象は全ての施設ですので、企業会計に関しても対象ということになります。企業会計に関しては、水道は先ほどのような形で、下水道は個別に計画を作っている最中ですが、大きな効果が出るというような雰囲気にはなっていないという状況です。病院は個別に長寿命化計画、中長期保全計画と言っていますが、それを作る作業に取り掛かる状況です。

<有識者委員>

比較的企業会計の方は粛々に行われてきているということですね。取組が進んでいるという認識でよろしいでしょうか。

<行政側出席者>

企業会計の方が事業の面で水道も下水もハードの方に特化していて、病院も高度な医療機器といったところがメインになってきたりしますので、一般会計で進めているような福祉の施設、市民館・図書館といったところよりはハードの認識が高いというように考えております。

<有識者委員>

わかりました。

<有識者委員>

川崎市の取組は全国の中でも進んでいるというイメージを持っているのですが、基本的にはそういった意識でよろしいでしょうか。いわゆる国土交通省をはじめとして国の方で危機感を持っている老朽化について、川崎市は個別に対応が進みつつあり、市民の方から見た場合に多少安心して暮らせると言えるのかどうか、その辺りはどうなのでしょう。

<行政側出席者>

様々な行政ニーズに対応していかなければならないこともあるので、どういったプライオリティーを付けながら施策に取り組んでいくかということがあり、私どもとしては、先ほどの庁舎等建築物の修繕費を増やしていかなければならない等、十分に対応できているところまで言えない部分もございます。ただ、川崎市の現状を捉えて、その特徴点を分析して、その対策を取っていくという意味では、着実に歩みを進めているという認識はもっています。

<行政側出席者>

数字的には消防署は100%耐震化されているとか、目に見える効果が出ています。

<有識者委員>

市民の方へどのように伝えていくか、厚い文書だとなかなか読めませんが、もっと簡単に、市の取組が伝わればいいと思います。

<行政側出席者>

総合管理計画という位置付けなので、その中で議会へしっかりと説明すること、市民の方へしっかりと説明することと言われておりますので、夏頃までにはこういった形で説明させていただくのかということを検討したいと考えております。

<行政側出席者>

耐震に関して言えば、川崎市耐震改修促進計画の中で、重要特定建築物の53施設の内、本庁舎等2施設を除けば来年度いっぱい全て完了予定です。

<有識者委員>

具体的に伝えていけば、わかりやすいと思います。あともう1つ、現場の方の意識というものが出たと思うのですが、41ページのところに要求はなかったけれどもチェックを見て、予算化するように促したという話があったのですが、現場の方もちゃんとチェックをすれば、自分たちが予測できなかったところも予算が付けられる可能性があるということに気付かれたのでしょうか。

<行政側出席者>

そうですね。やはり今までは一方通行で悪いところの情報だけ発信していたものが、その答えがあるというのが少し違うのかなと思います。

<有識者委員>

しっかりと予算が付いてよかったと思います。

<有識者委員>

川崎市は資産マネジメントの取組においてトップランナーでいらっしゃるということと、着実にこういった取組が進んでいらっしゃるということが、この資料でもそうですし、実際の取組でも見て取れるというところがあります。一方で、環境的にも他の政令市と比較すると恵まれているという部分もおありなのかなというのがあって、特に市民の方に対して、今後どのように各々の取組をお伝えしていくかという中で、当然、他都市との比較もそうなのですが、どちらかというとは後は経年的に定点観測をしていって、自分たちの取組というのがどういう方向に進んでいるのかということをお示ししていかれるというのが、1つ重要なかなと思っております。そのときに先ほどございましたわかり

やすい指標でどれを採用して、どういうメッセージを伝えたいのかということも、少し押し出してもいいのかなという気がしています。今はどちらかという現状こうなっていますという報告というところで、若干メッセージ性が強調されてもいいのかなというところがありまして、やはりトップランナーであるが故の悩ましい部分というところもあるかもしれませんが、強い姿勢のようなところは何かしら今後の検討課題として、考えていければいいのかなというように思います。

<行政側出席者>

各都市で、様々な市民の方への周知の仕方ですとか、いくつかやられておりますので、そういったことも参考にさせていただきながら、検討したいと考えております。

<有識者委員>

他の都市だとむしろ喫緊の課題に対応するので手一杯のようなところがあったりして、それをやりましたということで、ある程度アピールしている部分もあるのかもしれませんが、川崎市はトップランナーでいらっしゃいますので、むしろ一歩先を行っていただきたいと思います。

<行政側出席者>

私どもとしては私どもの課題認識を持っていますので、そういった部分でもう少し次を目指していければと思っております。

<有識者委員>

システムは今年度からですか。

<行政側出席者>

そうですね、稼動は今年度からになります。

<有識者委員>

入力される方に教育や研修というものはどのような形でされているのですか。

<行政側出席者>

まず、6月に実際に扱われている方への実務者向けの講習というものがございまして、そこでの説明のほか、詳細のマニュアルもシステム内で見ることができるようになっておりまして、入力をアシストするようなシステムになっております。今回入力を3月にお願いしましたが、何件か問い合わせはございましたが、比較的うまく導入できたかなと思っております。

<有識者委員>

システムの入力はスムーズにいかれたということですね。

<行政側出席者>

担当には事前に説明に伺うことも行いました。

<有識者委員>

わかりました。

<有識者委員>

予算との関係で、16ページに取組の背景と資産の状況がございまして、公共建築物の修繕費・更新費の将来見通しにおいて、下の方は資産マネジメントを実施する場合ということで、単年度ベースで平均した数字がグラフの中に入っていて、大体245億円くらいが数年間の値となっており、それと88、89ページの来年度の予算との関係ですが、これは一般会計なので、長寿命化で225億円くらいつくわけで、それから戦略2の資産保有の最適化で中身を見ると民間活力の導入等がございますが、歳出ベースで205億円、ですから、戦略1と戦略2が歳出に係るもので、およそ430億円となり、こういった予算が一般会計ベースで付いています。そうするとこの金額と16ページの245億円との関係で、十分な予算が数年付くという理解でよろしいでしょうか。

<行政側出席者>

捉える対象が異なりまして、16ページの方が公共建築物に限定している数字となっております。88、89ページはインフラまで含んだものとなっておりますので、こことの比較は難しいかなと思っております。

<有識者委員>

逆に言うと、もし市民の方に出すのであれば、資産マネジメントの取組と16ページの金額を出していくと思いますので、予算の状況から公共建築物を抜き出したものがあつた方がわかりやすいのではないかと思います。あくまでも予算は予算だということなのかもしれませんが、せっかくマネジメントをやっているのであれば、想定どおり進んでいるとかいないとか、そういった議論が見えた方がいいのではないかと思います、難しいでしょうか。

<行政側出席者>

現在、国の照会もあるのですが、インフラまで含んで、長いスパンでの事業費というものの調査をかけています。回答できているのは政令市では4、5都市となっております。私どももそこを作ってはいるのですが、まだ整理しきれていないというところもあり、その精度を高めながらどういった見せ方があるのかということを考えているところでございます。

<有識者委員>

16ページの表を作るのも大変だと思いますし、他都市はそこまでできていないところが多く、ましてや予算的にいくら対応するかというのはもっと難しいという見方をされております。川崎市の場合はちょうどこの半分、マネジメントした際の見通しだけを出しています。それは先端に近いとは思っています。

<行政側出席者>

一定の条件の下で、試算をするということですので、実行ベースの予算の数字の積み上げとは、少し荒っぽさが違う感じがあります。

<委員長>

我々会計に携わったものからすると、よく調べないとまずいなと感じます。

<有識者委員>

今のお話の続きですが、これはこのままホームページに公開されるものでしょうか。

<行政側出席者>

これはホームページに出ております。

<有識者委員>

そうすると88、89ページの歳出を足した額が450億円になるので、16ページの従来手法の値とほとんど同じになってしまうので、今後減ってくるという意味かと考える可能性があります。

<有識者委員>

私も誤解をしてしまいました。

<行政側出席者>

今後、インフラまで含んで、長いスパンでの事業費の試算というものの精度を上げていきたいと考えております。

(以 上)